

国務大臣・国家公安委員会委員長賞

このコンクールは、いつも身近で私たちの家族や暮らしを守り、安全で明るい社会をつくるために、毎日働くおまわりさんを励ますことを目的に実施されました。おまわりさんとのふれあい・体験談や、おまわりさんへの意見、感想、こんなおまわりさんがいたらいいなと思う夢や希望などを自由に書く作文コンクールです。

Interview～受賞を振り返って～

夏休みの課題の中から自分で選んで、この作文に取り組みました。何を書くか決めるのに何日かかかり、まずは書くことをメモしました。清書をするのにも1時間くらいかかりました。何度も間違えたので、消しゴムで消したり書き直したりするのが大変でした。

でも、自分の知っている漢字をたくさん使って書くことを意識して頑張りました。漢字は、学校で習っていないけど、知っている字も漢字で書くようにしました。

受賞したことを先生から聞いたときはドキドキしました。はじめは、賞の名前が長くて漢字もいっぱい、どんな賞が分からなかったけど、大きな賞がもらえて嬉しかったです。



三ツ星小学校

かねこ みさき
金子 心咲 さん

おまわりさんからもらったお守り

三ツ星小学校 三年 金子 心咲

「お母さん、これ、おまわりさんからもらった。」

学校から帰ってきたお兄ちゃんの元気な声が聞こえた。見ると、手のひらの大ききの青いさがりを持っていて。紙を細かく切って作ってあるもので、「交通安全」と書かれていて、一目で手作りのお守りだと分かった。

「すごくきれい。お兄ちゃんちょうだい。」

と、お兄ちゃんに言った。でも、わたしが泣いてもさげんでも、おこつても、絶対にくれなかった。わたしはそのお守りを見るたびに、くやしい気持ちになった。いつもは落とし物のお礼はばんそうこう一まいなのにな。お兄ちゃんが

「おまわりさんが一人一つだって。」

と言っていたことを思い出して、良いことをして自分ですてきなお守りをもろうしかなと思った。次の日から下校のときは、道路をキョロキョロしながら歩いていて。でも、かたんには落とし物は見つからなかった。

そんなある日、ついに百円玉を拾った。いつもよりドキドキワクワクしながら百円玉をにぎりしめて、元来た道を走ってもどり、交番へ行った。おまわりさんはいなかったけどおくさんが出てきて、「いつもありがとう。一人一つどうぞ。」

と、いくつのお守りを見せてくれた。わたしは、女の子らしいピンク色で、細かい組み立てがまるで雪の結しようのようなものをえらんだ。そして、とてもほこらしく感じた。なぜなら、これは、よいことや正しいことをしたことのお礼と、「交通安全」の文字は、わたしたちを見守るおまわりさんの心に感じたからだ。お兄ちゃんが絶対にくれなかった気持ちがよく分かった。このお守りはわたしだけのお守りだ。

おまわりさん。わたしは今でも大切に大切にお守りを持っているよ。そして、これからもずっと、良いことや正しいことを見つけていくね。